

2016年度PMからのメッセージ

氏名・所属:竹迫 良範(株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 専門役員 技術フェロー)



略歴:

2002年 3月

広島市立大学 情報科学部 情報機械システム工学科 卒
知能ロボット講座(現:パターン認識研究室)

2002年 2月

株式会社ドリームアーツ 入社

大企業向けEIP製品開発、大規模対応・国際化(i18n)を担当

2005年11月

サイボウズ・ラボ株式会社 入社

セキュリティキャンプ講師、U-20プログラミングコンテスト審査委員、
SECCON実行委員長などの対外活動で、産学官連携の人材育成に携
わる

2015年 9月

国立高等専門学校機構 高知工業高等専門学校 客員准教授

2015年 9月

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 入社

ネットビジネス本部 ラーニングプラットフォーム推進室 技術フェロー

2016年 1月

株式会社リクルートホールディングス 兼務出向

リクルート経営コンピタンス研究所 コンピタンスマネジメント推進部

2016年 4月

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

専門役員 技術フェロー

専門分野:

セキュリティ技術全般
低レイヤー、バイナリ
自作OS、ネットワーク
IoT、組込機器開発
プログラミング言語
開発基盤ツール

メッセージ:

筋の良い「車輪の再発明」は大歓迎です。車輪の再発明とは、既存のライブラリや先行事例があるにもかかわらず、似たような新しいプログラムを自分で一から作ってしまう行為のことで、生産性や品質が重視されるソフトウェアの開発現場では嫌われることがあります。現代は効率良くプログラミングできる開発ツールやライブラリが豊富にあり、複数の要素を組み合わせることでインテグレートするだけで目的のアプリケーションを少ない工数で作ることができるようになりました。既に誰かが同じようなことを実現するライブラリが存在するのに、それを自分で一から作ってしまうと生産性が良くないと指摘されることがあります。しかし、それで本当に新しいイノベーションや技術革新は生まれるのでしょうか。むしろ、今の時代こそ、アプリケーション層のプログラムを実装する際にも、低レイヤーのバイナリ技術にも精通し、下から上まで一気通貫でモノを作る技術を有していることの方が競争優位性になり得ます。原理原則をすべて理解した上で型を上手に破り、自分の新しい型を作る、そのようなプロセスの中で新しい技術革新が生まれることがあります。一般的に、学習目的のために車輪の再発明をすることもあります。未踏ではそれ以上の価値が求められます。そして、自分で一からコードを書くのが大好きで、プログラミングの作業に熱中できるテーマであることも重要です。その結果、世界に新しい価値を一つ提供することができれば未踏の領域に踏み込めたと言えるのではないのでしょうか。車輪の再発明でも大歓迎、楽しみながらプログラミングしている姿が想像できる、そんな情熱溢れるテーマをお待ちしております。

審査基準:

1. 課題設定力
未踏の新領域に進出するための独自性・革新性のあるテーマ設定ができているかどうか
2. 問題解決力
自分で設定した課題を解決するために必要な技術力・問題解決力を有しているかどうか
3. 技術の幅と深さ
誰にも負けない技術の幅と深さがあり、自分達で開発する意義・優位性があるかどうか
4. 将来性
終了後もさらなる発展が望め、社会的インパクトを与える可能性を秘めているかどうか
5. まなび
本プロジェクト遂行によって、個人と社会のそれぞれで新しい学びが得られるかどうか